

第16回災害対策本部員会議での知事的主要発言

1. 会議冒頭での知事の発言

- 3連休が終わって、新たなフェーズに入った。後ほど、岸田総理がこの会議にオンラインで参加され、激励の言葉をいただけると伺っている。私からは、その場をお借りし、被災地の実情を踏まえ、市町を含め、被災自治体を代表して要望する。

国内外の多くの皆さまからも応援いただいております、全国津々浦々から支援物資が届くとともに、4日に受付を開始した義援金も、昨日までの5日足らずで、既に13億円余に達している。改めて、県民を代表して感謝申し上げます。

長丁場となるが、くれぐれも健康に留意し、引き続き、人命救助はもとより、道路・電気・水道・通信などのインフラ確保、物資の支援、避難所等での生活支援に全力を傾注してください。

- 特に、被災地の避難所は、飽和状態であることに加え、新型コロナやインフルエンザ、ノロウイルス感染症が発生している。これにより、輪島病院をはじめ、被災地の病院では発熱患者等が押し寄せている。命の砦となる病院がパンクすることのないよう、看護師等の人的支援の増強をお願いしたい。
- 災害関連死を防ぐため、避難者の健康管理に細心の注意を払い、陸・海・空のあらゆる手段を総動員し、1.5次避難所（いしかわ総合スポーツセンター）への移送を急いでほしい。

1. 5次避難所の運営にあたっては、被災者に寄り添ったきめ細かな対応をするとともに、2次避難所（ホテル・旅館）とのマッチングも円滑に行ってください。これらをしっかりと軌道に乗せてください。

また、これとは別に本日、輪島市からバスで加賀市の2次避難所に直接移送する予定となっている。あらゆる手段で能登の被災地の方々を支援しなければならない。

2. 会議最後の知事からの指示事項

- 引き続き、被災地のニーズに寄り添い、国、県、市町、民間団体、NPO、関係機関と情報共有し、しっかり連携してプッシュ型で対応して欲しい。
- 孤立集落、あるいは要支援集落について、継続的に必要な支援をお願いしたい。
- 災害関連死を防ぐため、被災地の避難者の健康管理に細心の注意を払うとともに、陸・海・空のあらゆる手段を総動員し、1.5次避難所（いしかわ総合スポーツセンター）への移送を急いでほしい。
- 1.5次避難所の運営にあたっては、被災者に寄り添ったきめ細かな対応をするとともに、2次避難所とのマッチングも円滑に行ってください。
- 改めて、個人的なボランティアや不要不急の用事で能登に入ることは、やめていただきたい。緊急車両、関係機関による支援、被災者の移送、物資の輸送等、大変込み合っているので、ご理解いただきたい。

- 県民、被災者の皆さまに対しては、積極的に、分かりやすい情報提供を、是非お願いしたい。
- なお、明日は発災から10日目である。午前10時から県民記者会見を開催し、今回の地震被害に関して、私から県民の皆さまにメッセージを発信する。
- 連日、本当に皆さんありがとうございます。自治体職員の派遣の皆さんも、県から派遣した職員も、疲弊しないように、適度に休憩をとりながら、現地の支援に当たっていただきたい。未だに、がれきや土砂の下に埋もれている人がいると想定されるので、引き続き、緊張感をもってお願いしたい。